



編著者

斎藤 幸平さん

いずれも世界的に知られる、哲学者マルクス・ガブリエル、政治哲学者マイケル・ハート、経済学者ナリットのポール・メイソンと、32歳、気鋭の日本人若手研究者が切り結んだ、共著の対話集。社会の現状に読者の「気持ち」は暗くなるかもしれない。他方で新たな地平を切り開けるのではないか、という希望も感じさせる一冊だ。

富の偏在など問題はあっても、資本主義以外の選択肢はない。そう考える向きも多いだろう。だが「資本主義が最善だ。他に道はないのだ」と信じている人たちに別の選択肢を提示するのが、私たち理論家の仕事です。ハート

との議論でそう言い切る。現代の資本主義を「労働をたぐさんして大量生産し、大量消費

問題意識共有連帯の希望はある

費する社会」とみる。「気候変動の危機を考えると、そのサイクルはもはや成り立ちません。持続可能な社会にしなければ人間の生存が危うい」
温暖化など地球環境の危機を認めない人も少なくないが、「だから対話をあきらめる」となる人も「元も子もない」。スウェーデン

の高校生、グレッタ・トゥーンベリさんが昨夏、一人で始めた「学校ストライキ」について「SNSで拡散され気候変動対策を取るべきだ」ということが世界的なムーブメントになりました。問題意識の共有と連帯の希望はある、ということだ。「いろいろな利害対立がある。



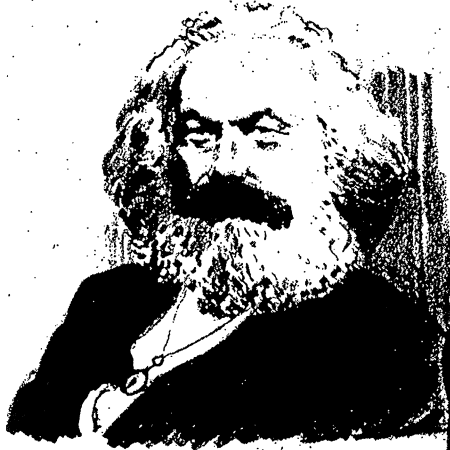
たえば再生可能なエネルギーへのシフトで職を失う人もいる。グリーンニューディールで賃金が補償される職を確保し、支援する必要がある」と、具体的な処方箋も提示する。しかし「気候変動がいかに深刻か、今の日本では伝わっていない」。幅広継続的な社会運動も乏しく見える。「だからこの本を出しました。刊行後約2カ月で3万部。出版水戸期でも、硬い内容でも、しっかり書けば読者はいる、ということだ。

米国でカール・マルクスの思想を学んだ。「もっとマルクスをやりたい」と独学でマルクスに進み、哲学科博士課程を修了。専門は経済思想で、現在は大阪市大の准教授。ポストキヤピタリズムへ向けて重視するのは社会運動だ。卓越した学識と若さのエネルギーゆえ、運動の旗手として期待されるだろう。文・写真 栗原俊雄

この3冊

斎藤 幸平・選
マルクス

- ①<帝国>グローバル化の世界秩序とマルチチュードの可能性 (アントニオ・ネグリ、マイケル・ハート著、水嶋一恵ほか訳/以文社/6160円)
- ②NOでは足りない トランプ・ショックに対処する方法 (ナオミ・クライン著、幾島幸子、荒井雅子訳/岩波書店/2860円)
- ③キャリバンと魔女 (シルヴィア・フェデリーチ著、小田原琳、後藤あゆみ訳/以文社/5060円)



Karl Marx



南 伸坊

「私たちの国が直面している最も深刻な課題の一つは社会主義の亡霊である」。冷戦下の話ではない。これは9月の国連総会でのトランプの発言である。今、アメリカでは、グローバル資本主義の矛盾が顕在化する中で、大分岐の時代に、もう一度マルクスの「コミニズム」を復権しようとする動きが登壇し、ウォール街占拠運動やグリーン・ニューディールにも影響を及ぼすようになってきているのだ。

①ところが、その端緒となった二世紀の「コミニズム」宣言である。その理論的核は、「17モン」の民主主義的管理を社会的に制度化することにある。これは「17モン」とはなにか。それは究極的には地球であり、土地、水、エネルギーといった根源的な生産手段である。だが、私利私欲のことで地球は独占され、資本の価値増殖のための手段となり、掠奪されていく。マルクスは、その結果人間と自然の関係に「亀裂」が生まれることを批判し、地球を共同的な財産として取り戻すことを求めていた。

この亀裂がいま最も深刻に表れているのが、気候変動の危機である。現代の大量生産、大量消費を支える化石燃料の乱消費こそが、子どもたちや貧困層、マイノリティといった社会的弱者にその負担を転嫁するという不正を生んでいる。資本主義を変えようとするには、気候正義も実現できないとし、②はエコ社会主義に向けた具体的な提案「リフ・マニフェスト」を掲げる。そこで鍵となる戦略の一つが、工場労働からケア労働への転換である。介護、保育、教育といったケア労働は社会の再生産にとって不可欠で役立つだけでなく低炭素だからだ。

ところが、現代のケア労働では長時間、低賃金が蔓延し、その負担は女性に押し付けられている。このジェンダー格差という領域で、われわれは、マルクスを超えねばならない。③が暴き出すのは、マルクスが見逃していた、女性たちの身体やケア労働が暴力的に、無償労働という形で資本の掠奪対象となった歴史である。そして現代においても、女性の征服こそが労働と富の蓄積にとっての前提条件であり続けている。だからこそ、自然とケア労働を資本の支配から奪還するための新しい「コミニズム」には、階級・ジェンダー・人種・エコロジーという複合的闘争が不可欠なのである。(大阪市立大准教授)